鈴木擇郎先生訪中資金募集趣意書

日中両国の親善関係を維持していくことが、きわめてたいせつなことであることはいまさら論をまちません。

終戦以来とざされてきた中国大陸との関係も、この数年来まず文化・学術関係からしだいに交流が行われるようになり、貿易の面でもわずかながら進展のきざしが見られるようになってきました。

中部日本第一の商工業中心地たる名古屋市を有しているわが愛知県は、過去においてその繁栄の一端を対中国貿易に依存しておりましたが、今後もあらゆる面で人的交流を促進し緊密な関係を使っていくことは、当地方の将来のために重要なことであります。

今回、中国側の招待によって、愛知県訪中平和使節団十氏が大陸に渡られることになりましたことは、上述のような意味からもまことに喜ばしいことであります。

この使節団の一員として、従来中国研究の分野において大きな特色と熱意とを示してまいりました愛知大学からも鈴木擇郎先生が参加されることになりました。

御存知のように、同先生は大正九年以来東亜同文書院（のち大学）教授として数千の人材の養成に努められ、愛知大学創立後もひきつづいて文学部教授として学生の薫陶に当られているほか、講義の余暇には華日辞典編集委員会委員長として日夜精励され、また多年学生就職斡旋委員長としても寧日なく御尽力下さっております。

先生は今回の訪中によって、平和使節団の一員としての重責を果されるほか、学術の交流や華日辞典完成のための連絡の確立などの面で大きな成果を収めて帰来されることでありましょう。

ここに私どもは、先生が今回の長途の御旅行において真に御満足な活動をされることができますように、応分の声援をお送りする意味において、有志相はかって資金を募り、先生にお贈りしようということを発起いたしました。

なにとぞ、先生にゆかりのある有志各位の御参加をお願いいたします。

昭和三十三年二月初旬

右発起人代表

小岩井　浄
小幡　清金
山崎　知二
胡麻本　鳶一
桑島　信一

〔注〕鈴木教授は北京に於いて中国側の専門家と会談し、研究機関を訪問した。